

★ つのぶえ保育園の理念 【 人として 】 ★

✦ 聖書に基づいた『キリスト教保育』（命の根源を知り、目に見えないものへ想いを馳せる心を育む）

- 子どもも 大人も すべての人間は、神様によって創られ、生命を与えられているものであり、その一人ひとり皆、この世界に於いて 唯一の かけがえない存在として生かされています。日々の園生活を通して 子ども達それぞれが その真理を知ると共に、周りの仲間もまた自分と同じように大切な存在である事を受け入れ、互いに尊重し合い、慈しみ合い 想い合える心と “人として” の意志を育てる保育をしています。園生活や 各行事はすべて、子どもが主役です。

✦ 一人ひとりに寄り添いながら 心を使い合い、共に分かち合うことの喜びを育てる『自由保育』

- 毎日の生活や活動の中で五感を用いての体験を重んじ、柔軟な物的・人的環境を設定し、子ども達が自らの手によって 楽しみながら のびのびと展開できる保育をしています。各年齢各自の発達段階に応じて「共感する・考える・話す・やってみる・分かち合う」を大切に “自由” における責任感と主体性、自主性と協調性を育むと共に 乳幼児期において最も重要な心の育ちを重んじ、“人として” 真剣にぶつかり合いながら、生きる力を養う保育をしています。

✦ どんな時も 常に 子どもを真ん中に 家庭と保育園が 手を取り合える『二人三脚の子育て支援』

- 保育園と家庭それぞれが、互いの立場や役割を明確にした上で、理解を深め合うことに努めています。園だより・個人面談・保護者会・座談会・保育参加などを定期的に行っています。

上記は、公に掲げている『保育園案内』の中で謳っている つのぶえ保育園の保育理念です。

1959年に設立された当園は、来年には 60歳を迎えます。

そして私自身も、園長として運営を担うことになって今年で ちょうど20年が経ちました。重い重い責任のバトンを引き継いだ20年前、設立者である 故 榎崎 光先生が 常に熱く語られていた つのぶえに対する想いと 子ども達への祈りを 改めて 心に強く刻みました。これからの日々、どんな風に 何を大切に 子ども達ひとりひとりを育てていけばいいのか つのぶえとして守るべきものは何か、また 逆に 変えるべきことはあるのか、これまでの自分自身の保育を振り返り、真摯に自らと向き合い、保育園の歩みについて 考えました。そこで浮かんできたものが『人として』という理念であり、この三つの柱でした。

私は『キリスト教』とは、キリストの “教えや 戒めを守る” ものではなく、キリストの “行いや 生き方そのものを 做うもの” だと思っています。何か壁にぶつかった時、悩み迷った時、聖書に記されてあるイエスさまの姿から 答えを見出せることが 良くあります。イエスさまと同じようにやってみること…キリスト教とは 生き方なのだと思います。まさに『保育』も 同じです。子ども達に何かを教えるのではなく、保育者の姿を通して 生き方そのものを伝えることなのです。子ども達を上から押さえつけて 大人の思うままに従わせることでも 指示通りに動かすことでもありません。ひとりひとりに寄り添いながら 保育者自身があるがままの自分の姿を 子どもにぶつけること、共に生き合うことなのです。9月を迎えて 今年度も下半期となりましたこの時、今一度 私達保育者自身が この理念をしっかりと読み返し 心新たに祈りつつ キリスト教保育の原点に立ち返りたいと思います。保護者の皆様からお預かりしている大切なひとりひとりの貴い命の成長を共に分かち合うことができる感謝と喜び、そして大きな責任を 改めて 心に刻み合い 尽力していきたいと願っております。これからは行事も重なり、皆様にはこれまで以上に 御協力を頂くこととなりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。神様の豊かな祝福を祈りつつ・・・

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい（ヨハネ14：1）」（石田 記）